



12 刺繍神宮之図屏風 大野隆平ほか 四曲一隻

大正十三年（一九二四）

刺繍、蒔絵

総一五七・五×二二二・〇

柔らかな陽射しに照らされた、伊勢神宮の内宮にある下の鳥居と橋の静謐な風景を細やかな刺繍により縫い取り表した屏風である。原画は京都の画家である十森協定による油彩画で、その筆致や色彩を忠実に表している。刺繍は津市の大野隆平によると伝えられる。屏風の腰板は蒔絵と薄い貝板による螺鈿で伊勢に流れる五十鈴川とそこに泳ぐ鮎が表されている。蒔絵部分の各所に細やかな真珠が鏤められており、三重県鳥羽町において産出された御木本真珠である。屏風の枠木は黒漆塗で、唐草模様を透かし彫りした重厚な金具を付ける。屏風の裏面には、白地に松、竹、梅、橘、桜の花枝をそれぞれわくわえて飛ぶ九羽の鶴が金銀糸で織り出されている。

大正十三年（一九二四）二月、皇太子（昭和天皇）と皇太子妃（香淳皇后）が御結婚に際して神宮を参拝された折に、三重県知事より献上された品である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan